

平成29年度「全国学力・学習状況調査」狛江市の結果

「全国学力・学習状況調査」が平成29年4月18日（火）に実施され、その結果が文部科学省から各小・中学校へ送付されるとともに、教育委員会へも報告されました。

「全国学力・学習状況調査」は平成19～21年度の3年間悉皆で調査されましたが、平成22年度から抽出調査に切り替えられました。（平成23年度は東日本大震災の影響で中止）しかし、抽出調査に変更されたことにより、「各都道府県の状況についてはおおむね把握できるが、詳細な状況把握及び分析等には生かしくなっている」という課題から、平成25年度から悉皆調査として実施されています。

平成29年度は、国語（A・B）算数・数学（A・B）が悉皆で実施されました。市内の小・中学校の結果の分析についてまとめましたので、御報告いたします。

調査の概要

調査実施日 平成29年4月18日（火）

調査の目的 ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

調査対象 国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 科に関する調査（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校（児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

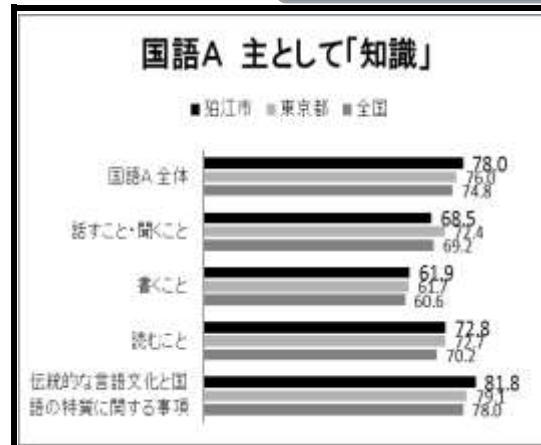
1時限目（45分）	2時限目（45分）	3時限目（45分）	
国語A（20分）、算数A（20分）	国語B（40分）	算数B（40分）	児童質問紙（20分程度）

◎中学校（生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。）

1時限目（50分）	2時限目（50分）	3時限目（50分）	4時限目（50分）	
国語A（45分）	国語B（45分）	数学A（45分）	数学B（45分）	生徒質問紙（20分程度）

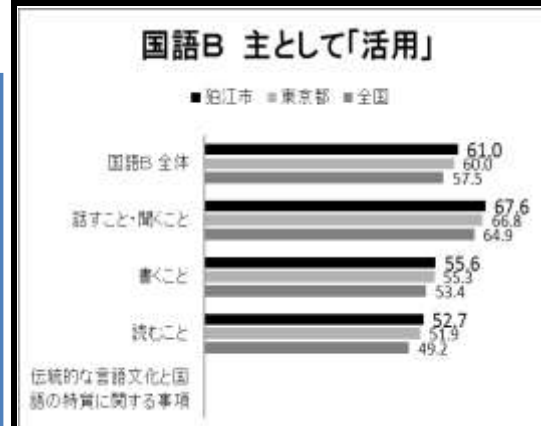
受検者数 【小学校】第6学年 489人 【中学校】第3学年 402人

小 学 校



◇「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、国及び東京都の平均正答率を上回りました。

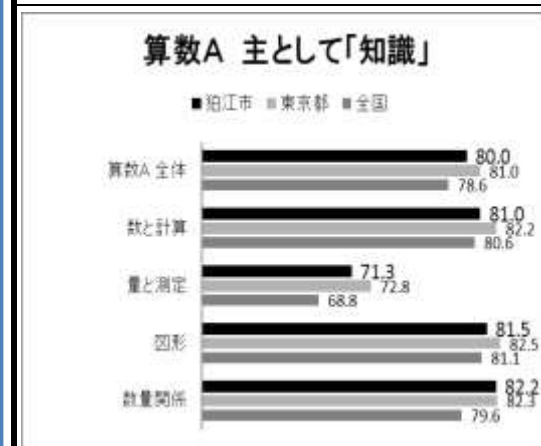
◆「書くこと」においては、国・東京都の平均正答率を上回っているものの、「手紙の後付けに必要な日付・署名・宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する」問題は、平均正答率が5割に満たない結果となりました。



◇「話すこと・聞くこと」では、「話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える」問題は国の平均正答率を6ポイント以上上回りました。

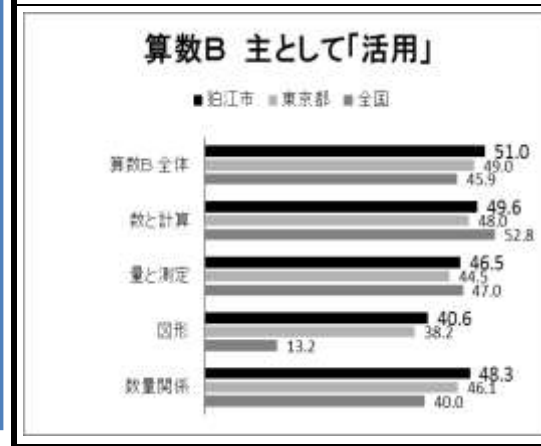
「読むこと」では、「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」問題は国の平均正答率を8ポイント以上上回りました。

◆「書くこと」では、「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」問題は、平均正答率が4割に満たない結果となりました。



◇「数量関係」では、国の平均正答率を上回り、「資料を二つの観点から分類整理する」問題では、平均正答率が東京都を約3ポイント、国を約9ポイント上回りました。

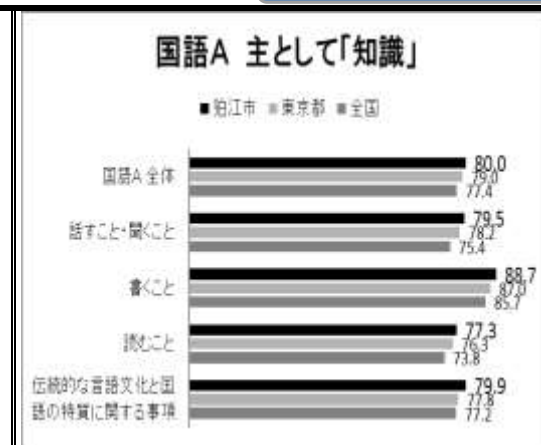
◆「数と計算」では、都の平均を下回っており、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかをみる」問題、「数量の関係を数直線に表す」問題に課題が見られました。



◇「図形」及び「数量関係で国及び東京都の平均正答率を上回りました。「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する」問題では、東京都を約6ポイント、国を約12ポイント上回りました。

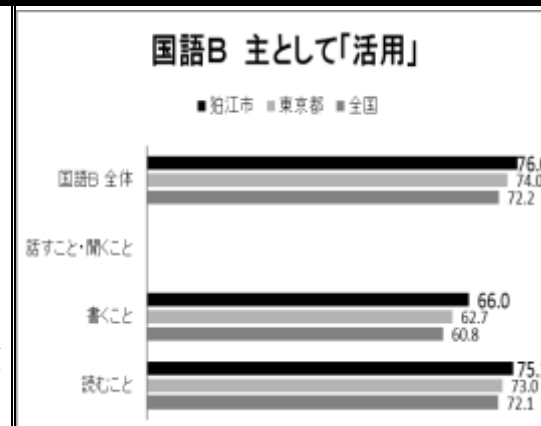
◆国及び東京都の平均を上回ったものの、「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する」問題の正答率が30%に満たない結果となりました。

中 学 校



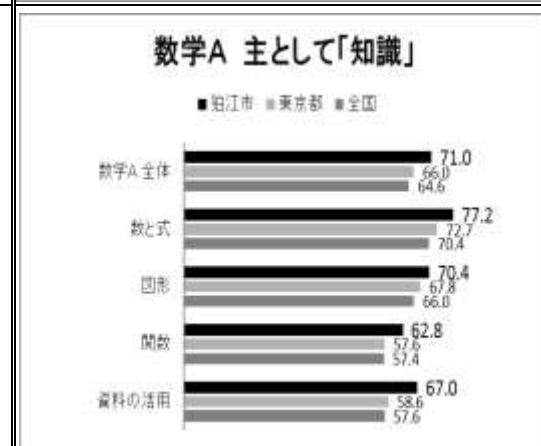
◇「書くこと」では、「書いた文書を読み返し、語句の使い方を工夫して書く」問題で国や東京都の平均正答率を4ポイント程度上回りました。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、「楷書と行書の違いを理解する」問題で国や東京都の平均正答率を13ポイント上回りました。

◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問題では、正答率が5割に満たない結果となりました。



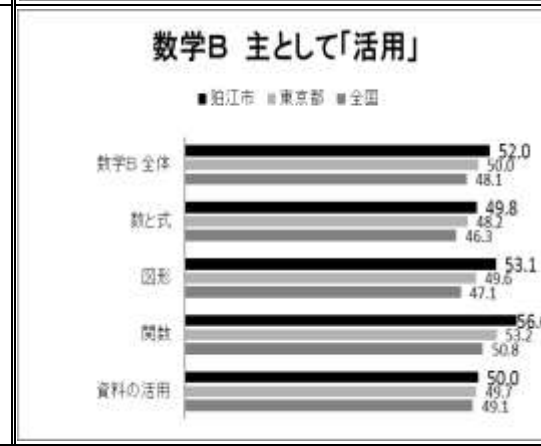
◇いずれの領域においても、国・東京都の平均正答率を上回っています。「必要な情報を集めるための見直しをもつ」問題では、国を7ポイント、東京都を5ポイント上回りました。

◆「書くこと」で、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題では、正答率が5割に満たない結果となりました。



◇全ての領域において、国・東京都の平均正答率を上回っています。「資料の活用」の「範囲の意味を理解する」問題では国及び東京都の平均正答率を約20ポイント上回りました。

◆「関数」の「長方形の縦の長さや面積の関係を関数として表現する」問題では、平均正答率が3割を下回り、課題が見られました。「図形」の「錯覚の意味を理解する」問題では国及び東京都の平均正答率を10ポイント以上下回りました。



◇全ての領域において、国・東京都の平均正答率を上回っています。「図形」の「筋道を立てて考え、証明する」問題では、国を約14ポイント、東京都を約7ポイント上回りました。

◆全ての領域において、国及び東京都の平均を上回ったものの、「数と式」では、「与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現する」問題の正答率が2割に満たず、課題が残りました。